令和７年度　校内研究・研修

（１） 研究主題

教科等	研　究　主　題	指定区分・指定内容	「読み解く力」との関連
国語科	確かな学力を身に付け、自ら学ぶ力を 発揮する子どもの育成 ～書くことを通して自分の思いを表現できる授業づくり～	地 教育課程	◯

（２） 主題設定の理由

本校の児童は、教師からの指示待ちの傾向が強く、自ら考えて主体的に活動できる児童が少ない。学習活動においても、思考力が十分でなく文章を理解して問題を解くことなどに困難さが見られる。このような子どもたちに対し、昨年度は読み解く力を意識して授業改善に取り組むことで、子どもたちが主体的に学び、確かな学力が身に付くように研究を進めてきた。また、近年、発達特性のある児童が増加傾向にあり、学習活動に時間を要したり集中力が持続しなかったりする実態があることから、昨年度は個別最適な学びを実現するために、特別支援教育の視点からユニバーサルデザインを意識した授業の工夫にも取り組んだ。児童の実態に即して支援の方法を考えることで、主体的に学ぶ姿が見られるようになり、意欲的に学習に向かうことができることを確認した。

また、授業実践から学んだことを「自己振り返りシート」にまとめ、授業づくりに生かすことで、教員一人一人が確実に授業力を向上させることができるようにしてきた。今年度も、授業研修を通して新たに生まれてくる共通実践を授業に取り入れていくことで、授業改善の PDCA サイクルを回していく取組を継続していきたいと考える。

これらの取組が子どもたちにとって有効な取組となった一方で、いまだ自分の考えや思いを相手に伝えることに苦手意識をもっていたり、自分の考えや思いを表現することに難しさを感じていたりする児童がいる。これらの根底には、自分の考えを整理して順序立てて書くことに困難さがあったり、語彙力が十分に身に付いておらず、場に適した言葉が出てこなかったりするなど、自分の思いや考えを相手に伝えることに不安を抱えている児童の実態が挙げられる。このような児童は、個別の支援を行ってきたが、表現することの楽しさを実感することはできずに生活している児童もいると思われる。

そこで、今年度の研究では、書くことによって自分の思いや考えを明確にし、豊かに表現することができる児童を目指し、研究を行っていく。昨年度研究を進めてきたユニバーサルデザインを意識した個別最適な学びを基盤とし、学習者用端末を効果的に活用しながら協働的な学習を取り入れて考えの再構築を行うことで､自分の考えに自信をもって表現することができる子を育成することができると考える。また、国語科の学習以外でも、読書活動や言葉の学習を充実させることで語彙力を向上させ、豊かに表現できる児童の姿を目指したい。

（３） 研究の内容と方法

〈研究の内容〉

① 児童が自ら課題を発見し、主体的に学ぶ単元構想のあり方

② 根拠を示して自分の考えを表現できるようにするための手立て

③ 児童の学習意欲を高める目的意識、相手意識を明確にした協働学習への手立て

〈研究の方法〉

国語科を窓口にして以下の３点に重点をおいて授業研究を進め、全学級で授業研究会を行い、児童

の学びの姿から授業を検証する。

① 児童が「～したい」「できそう」とゴールを明確にイメージしたり、学習成果の発表など、相手意識をもって意欲的かつ見通しをもって学習したりできるように単元指導計画や授業展開を工夫する。

② 児童が自分の考えをもつことができるような手立てを工夫し、その考えを書き表したり、説明したりする場面を設定する。

③ 「学びのスタンダード」「稲北学びのメソッド」を意識し、学習規律の定着、書く活動の充実、読書活動の充実、ＩＣＴの効果的な活用、家庭学習の定着を図り、児童の学びの基盤づくりを推進する。

〈具体的な方策〉

ア 「読み解く力」を高め、発揮する子どもの姿をイメージした授業づくり

①単元構成について

〇付けたい力を明確にし、目的意識や相手意識を明確にした単元構成を考える。

〇地域資源を活用したり、他教科と関連づけたりして教科横断的な単元構成を工夫する。

〇学習の中で、他者と協働したり、対話したりして課題解決する場面を設定する。

②授業展開について

〇児童が「～したい」「～できそう」「なぜかな？」と思うような導入や課題設定を工夫する。

〇児童がじっくりと課題に向き合う時間を確保し、根拠をもとに自分の考えを表現する場面を設定する。

〇考えをもたせるための工夫をする。

・ワークシートやホワイトボード、ICT 機器を活用して考えを比較したり分類したり整理したりする場面を設定する。

・デジタル、実物、大きさ、提示のタイミングなど、資料の提示の仕方を工夫する。

・辞書、図鑑、インターネット、場の工夫、学習の足跡が見える掲示など学習環境を整える。

〇考えを再構築する場面を大切にする。

・子どもたちと一緒に学習のまとめを行う。

・振り返りを書く時間を取る。

・考えが整理しやすいように、振り返りの視点を明確にする。

イ 基礎となる力の育成

①おはようタイムの取組

〇国語科の取組

・金曜日は、書く活動として以下の通り取り組む。

ミニ作文→第１・２・５週に行う。

テーマや字数など条件に応じた作文が書けるようにする。

国語科の指導内容と関連させる。

言葉の学習→第３・４週に行う。語彙を増やしたり、文節を意識したりする。

※専用のファイルを作って一年間の学習の足跡を残す。

※階段踊り場に掲示し、児童の意欲付けになるようにする。（月１回更新）

言葉のたから箱の掲示→国語科教科書にある「言葉のたから箱」を掲示したり、個人で持たせたりすることで語彙力を増やす。

②読書活動や音読の充実

〇読書タイム（第１・３・５週）

・いつも机の横に本を入れる袋(ブックバック)を用意しておき、本がすぐに取り出せるようにする。
貸し出し冊数を２冊にする。（長期休業前・家庭学習がんばり週間は３冊）
・学級文庫の本を入れ替え、読書環境を整える（月１回入れ替え）

〇学習者端末による学習の振り返りの実施
・各教科の終末に、端末による振り返りを行う。

〇お話タイム（第２・４週）
・第２・４週の木曜日に読み聞かせを行う。（読み聞かせボランティアの協力）
担当学年の学習や季節等にあった内容の本など。

〇教科の学習における図書室(の本)の活用
・教科などの授業で活用できるようにする。特に、「読み解く力」のＡ（主に文章や図、グラフから読み解き理解する力）に関して活用していく。（読書支援員さんと連携）
・加配教員によるブックトークを行うことで、発展的学習に取り組む。

〇音読
・朝の会や国語のはじめの５分、家庭学習などで、継続的に取り組む。

〇週末読書の実施
・毎週末の家庭学習に１５～２０分間の読書を含む。
音読カードや専用の記録用紙を作り、時間やページ数、内容など学級の実態に応じて記録する。
・第３金・土・日曜日を「家読の日」と決めて取り組む。（図書館教育との連携）

〇図書室の整備

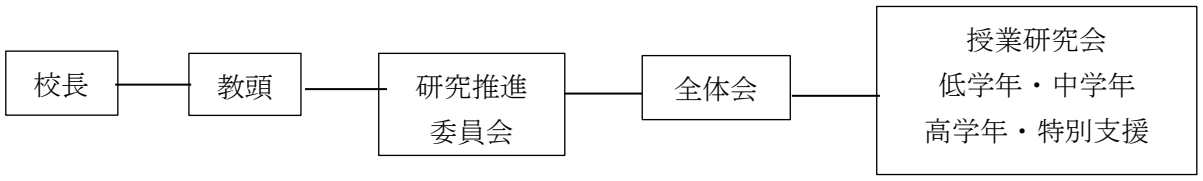
③家庭学習の習慣化
〇学年×１０分＋１０分以上の定着　年５回（家庭学習がんばり週間の実施）
〇家庭学習の手引きの作成（週末読書の実施）

④家庭・地域との連携

〈PDCA サイクル〉
毎月末に全職員でカリキュラムを見直す場を設定し、その都度修正していく。
学期ごとに「自己振り返りシート」をもとに実践の振り返りを行い、次学期の目標を立てる。

〈指標〉
☆児童が「～したい」「～できそう」「なぜかな？」と思うような導入を工夫し、児童自ら課題を設定することができたか。
☆他者と協働したり、対話したりして課題解決する場面を設定したか。
☆授業の終わりには考えをまとめたり、次につなげたりできるような振り返りの時間を確保したか。
☆児童がじっくりと課題に向き合う時間を確保し、根拠をもとに自分の考えを表現する場面を設定したか。
☆読書、家庭学習、保護者・地域との連携については、学校評価で肯定的評価８０％以上。

（４）　校内研究体制概要



（５）研究・研修計画

月	校　内　研　究	職　員　研　修
４	研究推進委員会 校内研究会	学校教育の指針について 本校教育推進の共通理解 不祥事防止研修　アレルギー対応研修
５	CBTの実施 授業研究会	ＡＥＤ講習会、不祥事防止研修
６	全体研究会	不祥事防止研修、民生委員との交流
７	研究推進委員会	保健安全研修
８		いじめ対応研修、教育相談研修会 学力向上研修、稲教推
９	授業研究会	
１０	授業研究会	
１１	学ぶ力向上訪問（１８日） 全体研究会 授業研究会	稲枝中ブロック子どもを語る会
１２	校内研究会　紀要作成について	不祥事防止研修
１	研究紀要原稿作成 授業研究会	不祥事防止研修
２	全体研究会	
３	研究推進委員会　次年度に向けて	

（６）過去５か年間の研究主題および指定研究歴

①令和２年度　「主体的に学び、未来に向かってたくましく生きようとする子どもの育成」
～「読み解く力」を高める国語科・算数科の授業～

②令和３年度　「主体的に学び、未来に向かってたくましく生きようとする子どもの育成」
～調べてみたい、分かりたい、できるようになりたい～
子どもが主語となる授業づくり（国語科・算数科を窓口に）

③令和４年度　「主体的に学び、未来に向かってたくましく生きようとする子どもの育成」
教育課程研究指定　～調べてみたい、分かりたい、できるようになりたい～
子どもが学び合い、高め合う国語科の授業づくり

④令和５年度　「確かな学力を身に付け、自ら学ぶ力を発揮する子どもの育成」
教育課程研究指定　～対話を通して、「できた」「分かった」を味わわせる授業づくり～

⑤令和６年度　「確かな学力を身に付け、自ら学ぶ力を発揮する子どもの育成」
教育課程研究指定　～個別最適な学びを通して「できた」「分かった」を味わわせる授業づくり～